



はこだて冬フェスティバル

第203号



◇ 巻頭言 ◇

札幌で群れ集おう

副会長 青柳史匡

(昭和42年卒)

夕陽會報等で既に周知のとおり、今年の本部総会・懇親会が六月十八日(土)、十年振りに札幌(会場・パークホテル)で開催される。札幌開催の歴史や意義を探るには、札幌支部八十周年記念誌(平成二十年十二月発行)に掲載されている第八代会長安島進氏の「札幌での大会」と題した玉稿が大変参考になる。その中で大会同は三回あったと記述している。その概要を紹介させていたたく。

一回目は、大正十五年八月二、三、四の三日間開催された講習会である。母校第二代校長橋本文壽氏が、文部省派遣で一年余りの欧米視察から帰朝されたのを機に、橋本校長らを講師として本部事業による講習会を一中(現札幌南高校)を会場に企画し、併せて懇親会も開催している。この機に道央に同窓を総動員して、函館ここに在り、の意気を示し、全同窓の結束と奮起を促そうという意気込みで思い切つて札幌を選んだ」とのこと。本部の万全を期した取組の結果、「広い一中の講堂に入り切れないほどの盛況ぶりであった」とのことである。

二回目は、昭和五十六年六月十三日、札幌ロイヤルホテルでの開催である。第六代会長高杉留七氏が就任して以来、「行動する夕陽会」を標榜して五年が経過、その足跡を確かめ次への発展を期すため、より多くの会員が直接参加できる地の利のよい札幌で企画している。懇親会には四百七十名の参加があり、その時の来賓も圧巻であったとのこと。地元函館での総会・懇親会が二百五十名前後の頃であったので、その盛会さに感激し親睦の

実を実感したとのことである。

三回目は、平成十三年六月十六日、二十一世紀幕開けの年に京王プラザホテルで開催している。「新世紀における土地墾闢・人民蕃殖」の第一歩とすべく、総会では行動指針を新たに「創造し行動する夕陽会」とし、会員一人一人がより積極的に行動し、自己実現や社会貢献を目指すこととした。懇親会には全道各地から九百名が参集した。当時の会長であった安島氏は、時代は移り変わっても、正に函師(教育大学函館)の存在と行動力をアピールできた一日であったと回想している。

それにしても、母校が創設なつて間もない大正時代に、同窓の少ない、しかも札幌の色濃い札幌の地での大会同の企画と、全道各地から馳せ参じた大先輩の心意気や結束力、行動力には驚かされる。二回目、三回目の参加者の数も同窓意識の昂揚感が伝わってくる。他の友誼団体で大学所在地から会場を移して総会・懇親会を開催している所はない。それだけに、札幌での開催には、本部役員はもとより、現職会員が減少している札幌支部の大変な努力にも支えられている。これに因應するために、十年振りとなる札幌大会同を成功させたいものである。

大先輩をはじめ諸先輩の皆様、後輩諸君、各同期などの仲間を各地から誘い合、札幌の地で群れ集いましょう。そして、あらためて夕陽の絆を確かめ合い、明日への活力の糧を土産にしようではありませんか。

第9回夕陽書道展に向けて

文化部長 中村吉秀
(昭和54年卒 亀尾小中学校長)

昭和53年に第1回夕陽書道展を開催してから、第9回を迎えることになりました。

そのつど、感動を累積し、書をもって心の交流を深め、夕陽のつながりを広げてまいりました。

各地で書活動をされている会員はもとより、書を始められた方々にも、是非この機会に出品をお願いします。

第9回 夕陽書道展

期 日 平成23年9月17日(土)～9月22日(木)

会 場 函館市芸術ホールギャラリー

◇問い合わせ先

夕陽書道展実行委員長 佐藤洋子(石蘭)

☎0138-58-2525 (昭和52年卒 石崎小学校長)

平成23年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会札幌大会について

1. 日 時 平成23年6月18日(土)

総 会 16:00～ 大懇親会 17:30～

2. 場 所 札幌パークホテル 地下2階「パークプラザ」

札幌市中央区南10条西3丁目 TEL 011-511-3131

3. 会 費 6,500円

4. 申し込みについて(一般会員・前納会員の皆様)

(1) 案内状の発送

平成22年12月下旬～平成23年1月

(2) 申し込み方法

一般会員・・・支会でとりまとめて支部へ申し込んでください。

前納会員・・・支部へ申し込んでください。

(3) 「案内」から「申し込み」までの流れ

本部から案内 → 各支部 → 一般・前納会員 → 支部でとりまとめ → 本部

5. 問い合わせ先

夕陽会本部事務局 庶務部長 榎山 聡(ならやま さとし)

〒041-0806 函館市美原3丁目48番6号 北海道教育大学附属函館小学校内

TEL 0138-34-5520 FAX 0138-47-7376

メールアドレス nara3104@hak.hokkyodai.ac.jp

6. その他

ご来賓、顧問・参与、各支部長につきましては、平成23年4月下旬に本部から直接ご案内いたします。



上川支部だより

上川支部長 石川 博美
(昭和49年卒) 旭川市立啓明小学校長

「今年も函館校出身の新卒が土別南中学校に着任しました。私たちにとっては大きな希望の星です。会務を共に担ってくれる仲間となってくれる日のくることを念じています。」

このように結んだ前回の会報原稿。この度、原稿依頼文を手にしたとき、支部長として二度も支部便りを本部会報に執筆できる喜びとともに「長くやり過ぎたかな。」との思いがふとよぎりました。

七年前、上川支部長を仰せつかったとき、私はまだ知新小学校の教頭でした。ご存じのように、上川は、教育大学旭川校のお膝元。同窓会は六稜会。本部もあれば、旭川連合会、上川連合会の大組織に現職、だけで約三千名の会員を擁しています。この六稜会の先輩に私は、俗に言うとかわいがられました。いつも「教頭なのに組織を背負って、大変だね。」「頑張れよ。あと少しだから。……。」と。

教頭支部長時代に、六稜会新年交礼会の乾杯発声の役割が当たりました。ホテルの会場には五百人以上が勢揃いしていました。その壇上で挨拶と乾杯発声するのですから、初デビューとしては冷や汗ものでした。ですから、当時の校長に指導していただいた原稿を胸にその場に臨んだことを記憶しております。

他友誼同窓会(北師、青陵、鶴陵)の懇親会にもたくさん招かれ、親睦を深め

る機会にも恵まれました。さらに、夕陽の先輩支部長とも交流を深めることができました。特に宗谷支部の間瀬校長には、苦しいときに支えていただきました。とても有り難かったです。支部長を長くできたからこそ、同窓との交わりも濃く、深くでき、私なりに同窓会意識を育てることができたように思います。

さて、当支部にとつて名簿上百名を超える会員が同窓意識を引き継いでいくことは、大きな課題です。そのため、後継者を上川につなぎ止めることに全力投球しています。今年には三名の臨探教員のうち一名を採用登録者にできました。また、冒頭述べた新卒の先生は、退職されて明治時代から続いている家業をお継ぎになりました。教員以外の民間会員の組織化が急務であるため、力強いスタッフとして今後の活躍が楽しみです。

十一月中旬、本部橋田会長から突然お電話を頂きました。「先生、卒業までやめるんでないよ。自分も辛いことあったから分かるけど……風の便りで弱り切っている私を励ましてくださった温かなお言葉に、感激いたしました。」

このように、自分の足跡からも、夕陽会は、人と人とのかわりを学ぶ場だったといえます。ですから、夕陽の旗を絶対に降ろさないこと、それを今の上川支部の合い言葉としています。



首都圏支部便り

首都圏支部長 高橋 妃彩子
(昭和52年卒) 東京都渋谷区立鳩森小学校長

大好きな郷里、函館を後にして早や三十四年が経ちます。東京での教員生活もだんだんと残り少なくなっています。子供たち、保護者、教職員、仲間の皆さんに支えられ、校長職七年になります。微力ながら、首都圏支部の支部長を務めさせていただいております。ご案内の通り、首都圏支部は、東京都とその近県である千葉県、神奈川県、埼玉県、山梨県等の会員で支部を組織しています。

夕陽会の伝統と歴史を保ち、継承するとともに、会員相互の親睦を深めるために、また、若手会員の資質の向上が図られるよう支援を行うために、支部年次総会と懇親会を年に一回ですが開催しています。今年度は、梅雨の季節の六月二十七日(日)に、本部より橋田会長様と土谷幹事長様をお迎えし、三十余名で集うことができました。毎回、橋田会長先生からの函館の街の様子や母校の活気ある様子を伺えることを楽しみにしています。懇親会では、互いの学校状況の情報交換をしたり、久しぶりにお会いする先輩方からのアドバイスをいただいたりするなど、あつという間に時間が経ってしまいます。自然と「函館弁」になっている私があります。やっぱり同窓はいいな、郷里は恋しいなと思う瞬間です。

全体での集まりは、年に一回ですが、支部役員同士は、常に連絡を取り合い、

会の活性化のためにどうしたらよいかを話し合っています。東京を中心とする首都圏には、まだまだ沢山の同窓生がいるはず。まずは、会員を増やすことに力を入れていきます。また、本部と連携を図りながら、次代を担う後輩を育成することにも努めてきました。今年度の首都圏支部は、とくに、未来の先生を目指して、首都圏に集まる新規採用教員候補への支援も支部の幹事長である相川哲也校長が中心となつて行いました。

いよいよ本年度末になり、各学校においては、次年度の教育計画の作成に余念がない時期だと思えます。小学校は平成二十三年度から、中学校は平成二十四年度から、新学習指導要領による新しい教育がスタートします。一人一人の児童・生徒に確かな学力を定着させるためには、教師の情熱と周到なる準備が不可欠です。首都圏の若い会員も、それぞれの学校で活躍していることと思いますが、中には指導法や学級経営に悩んでいる仲間もいるかもしれません。そういう時にこそ、支部の仲間が互いにアドバイスをし合ったり、情報を共有したりしながら、資質の向上を図ることが出来る組織でありたいと思えます。二十三年度も、本部の皆様と連携を深めていきたいと存じます。どうぞよろしく願っています。

前納会費納入会員名簿追加分

小林 浩路 伊達 昭49 高橋 栄二 奥尻 昭50
清水 利明 室蘭 昭48 寺島 雅廣 伊達 昭48
浪岡 康二 北見 昭48 竹内 隆 室蘭 昭49
穴戸 雄一 函館 昭47 (平成二十三年三月十日現在)

夕陽会員訃報

大和田四郎氏 昭16 古田 克宏氏 昭40 23・2・1
伊達市末永町130の29 柳子氏 茂子氏

谷内 要氏 昭24 羽二生行雄氏 昭17 23・2・6
音更町桜が丘5のC104 千代氏 嘉子氏

高橋 一夫氏 昭30 加藤 美輝氏 昭22 23・2・18
函館市桔梗4の8の30 宮子氏 旭川市住吉4の1の7の9

平沼 靖雄氏 昭23 米田 忠夫氏 昭28 23・2・20
函館市桔梗4の33の3 カツ氏 函館市千代台町6の2

千葉 禎氏 昭17 関村 智雄氏 昭27 23・2・21
江別市大麻宮町4公団住宅12棟108 艶子氏 函館市東山2の1の5

後藤 賢治氏 昭23 萩原 忠臣氏 昭5 23・2・25
小樽市赤岩2の2の2 文字氏 名古屋市東区東校2の2の15

佐藤 奨氏 昭30 笹野 尚明氏 昭31 23・2・29
函館市上湯川町20の3 雅史氏 札幌市豊平区西岡2の5の8の23

木村 博氏 昭32 八卷 明氏 昭26 23・2・29
函館市深堀町33の11 浩子氏 室蘭市輪西町1の15の7 敦氏

橋本勇之助氏 昭13 (平成二十三年三月十日現在)

室蘭市中島本町1の18の11 セイ氏

野村 良雄氏 昭26 23・1・29

函館市松風町18の17の505 フサエ氏

池田 道弘氏 昭34 23・1・31

函館市赤川1の13の5 紀子氏



前納会費制度

利用の仕組み

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の〇印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により異なっております。

次の四段階になっております。
①大正年代の卒業生 五千元
②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万元

③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万元
④平成元年以降の退職者 三万元

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みませす。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報二〇三号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、『はこだて冬フェスティバル』の写真です。

元町公園、基坂、八幡坂、二十間坂、二十間坂通りを約五万個のイルミネーションで彩るものです。

写真は基坂からフェスティバルの様子とバックに五稜郭タワーが夕映えの中に見えるものです。

はこだて冬フェスティバル「はこだてイルミネーション」は、「光に包まれた愛の街・函館」をテーマに、異国情緒あふれる函館西部地区の代表的な坂道や通りを、約五万個のイルミネーションで彩ります。教会、公会堂、ベイエリアのライトアップや雪景色と相まって、あたりはいつそう幻想的なムードに包まれます。冬のはこだてを象徴するイベントに成長してきています。

◆各支部での研修会やブロックでの活動が盛んになってきております。

開催を予定されている支部あるいは、ブロック等は本部事務局に早めに連絡をお願いいたします。

(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。
041-0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号(01338) 46-22235
夕陽会専用(01338) 34-55220
FAX番号(01338) 47-73776

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)

榮譽に輝く同窓



○瑞宝双光章

長寿—萬々歳

森町 小野 專一

(昭和17年卒)

この度は米寿を迎えて高齢者叙勲にあやかり勲章拝受の榮に浴し感激しております。

思えば昭和十二年函館師範学校に入學し、第一学期の定期試験の勉強中の夕方新聞号外の鈴の音により、盧溝橋での中国軍との交戦、直ちに在郷軍人の召集、学内からも先生方や二部生の召集があり食堂で壮行会が行われ棧橋まで萬歳の声援でその出征を祝ったものである。その私たちにも卒業と同時に令状がきて宮門をくぐり一命を投げ捨てて戦争に参加した。多くの同期が戦死をした。



○瑞宝双光章

私の教職の原点

札幌市 小林 隆

(昭和27年卒)

戦後、教員不足の時代、新制中学の代用教員が教職のスタートでした。昭和二十五年に学大函館分校二類に入り短い期間でしたが、凝縮された密度の濃い充実した二年間でした。

特に第二附属と呼ばれていた亀田小学校併設の桐花中学校での最後の検閲授業で当時「甲特」と呼ばれていた授業を行なったことです。当日は本学の教職関係の広川、林教官、専門教科(数学)の三浦教官、実習校の先生方、そして附属と亀田の全教生の参観のもとで実施したわけです。不安感・緊張感そして安堵感、これは



○瑞宝双光章

国立劇場、そして皇居長和殿で

函館市 川島 孝夫

(昭和31年卒)

平成二十二年春の叙勲に際し文字通り図らずも受賞の榮譽に浴し、何の功績もなく周りの方々に迷惑をかけてきた私にこんなことがあるのだろうかと驚きと戸惑いそして少しばかりの晴れがましい思いなど複雑な心境で過ごしております。受賞に際し、夕陽会長さんはじめ多くの会員の皆様から心のこもったお祝い、励ましを戴き本当に有難うございました。伝達式は五月十一日国立大劇場で行われ、当日は生憎の雨模様でしたが宮中行事の雨は五穀豊穡をもたらす雨で吉と言われるそうです。開式は十時三十分国歌斉唱・勲章伝達・東京学芸大学教員による祝賀曲奏楽・川端文部科学大臣の挨拶。



○瑞宝双光章

瑞宝双光章を受章して

函館市 澤田 三尾

(昭和31年卒)

平成二十二年十一月九日、午前十一時国立劇場大劇場で文部科学省によって「秋の叙勲勲章伝達式」が行なわれ、その式典後、省の職員が受章者一人ひとりに授章された勲章を左胸に飾って戴き、省が用意した十数台のバスに受章者・その連れ合い・介助者等を分乗させて、皇居に向かい、豊明殿で天皇に拝謁し、心優しい励ましのお言葉を戴きました。

その様子を私は「詩」にまとめ、近親の知人に差し上げました。その詩をここに披露して、この責めを終えます。

あゝ雲は 豊明殿に流れる雲によせて

「夕焼けこやけ」の唄をうたいながら
こどもたちがつくった
夢のおうちみたいですね
それとも

朱色に染まった雲のたなびきは
入日のしじまのように
人々の心の襷を耕しているのでは
そう あゝ雲は

オルガンの音色をかたちにして
心を濯ぐ人たちの
透明な水滴の集まりなのですね



○函館市文化団体協議会 白鳳章

白鳳章をいただいて

函館市 布施谷 信子 (昭和32年卒)

この度、函館市文化団体協議会より白鳳章をいただき、身に余る光栄と心より感謝申し上げます。

顧みますと、私が北海道学芸大学函館分校に入学したのは昭和二十八年四月、故林喬木先生に師事し、昭和三十年に東京学芸大学音楽学部委託学生として二年間、音楽に励みました。

卒業後、十年間教職につき、昭和四十六年から三十年間、母校、北海道教育大学音楽科非常勤講師として教鞭をとる事となり、若い人達と勉強する事は自分の喜びでもあり、励みでもありました。昭和三十五年から始めたピアノ教室は

今年で丁度五十年を迎えます。これを機に、私の主宰するアカシア会に縁のある方々をお招きして、二つのイベントを開催致しました。一つは、伊藤野笛先生の「ピアノ演奏と公開レッスン」もう一つは、記念演奏会で、御出演下さった皆様

の立派に成長なさった姿を拝見し、大変嬉しく思っております。音楽は人の心を豊かにし、勇気と安らぎを与えてくれるものと思っております。この度の受賞を機に、心新たに、より深く音楽の道を歩んで参りたいと存じておりますので、今後共、宜しく御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

北海道卓球連盟功労章 函館市体育協会功労章

おもはゆしの思い

函館市 國田 悦朗 (昭和30年卒)

平成二十一年十月北海道卓球連盟「功労章」、二十二年三月函館市体育協会「功労章」の榮に浴しました。これといった貢献も実績もないのに面映ゆい思いです。昭和二十六年、全国大学選手権東京城北体育館に、河村亮治、古閑 隆両先輩、棟方 正氏(故人)と、二十七年愛知金山体育館で河村先輩、棟方氏、柿崎陽一氏、沖 正氏と、二十九年横浜フヤイアー

ベースアリーナーのコートに棟方氏、柿崎氏、小松幹夫氏、藤田良一氏とおりました。「木製のラケット」を初めて握ったのは昭和二十一年です。

教職に就いても卓球に拘って指導に携わりました。生徒個々の能力や特性を見

出して努力させれば大成することも学びました。教科指導では味わえない達成感や充実感に浸ったものです。平成二年、函館卓球協会副会長として三代の会長に師事しましたが、どの会長も卓球に対する情熱はあつた、選手育成に心血を注がれる高潔な方々でした。技術向上に有名選手を招聘、実技研修の開催、卓球の普及と地域活性化に隣接町村(南茅部、知内町)に全国大会開催を促され成功を収められた方。先見、決断、揺るぎない行動力に魅せられたものです。今後も夕陽会員として自覚との誇りをもって生きていく積りです。



○北海道スキー連盟功労者表彰

仲間の支えに感謝して

函館市 福田 肇 (昭和34年卒)

このたび、北海道スキー連盟功労者表彰を受賞することができたことは、これまで函館スキー連盟を支えてきた素晴らしい先輩や仲間へ思われたお陰であり心から感謝申し上げます。

昨年十月二十三日札幌プリンスホテルで行われた授賞式で厳粛な雰囲気の中で北海道スキー連盟会長より表彰状と記念品をいただきました。このような重い価値ある「賞」は私一人ではいただけないと思っております。これまで一緒に力を合わせて連盟の運営に携わってきた多くの仲間とともに頂いたものと思っております。

顧みますと、昭和四十年にスキー指導員資格を取得して間もなくスキー連盟理事に就任して以来約半世紀にわたって連盟の組織の充実や人材育成など、スノースポーツの普及・発展に微力ですが情熱

を注いでまいりました。この間、昭和四十七年札幌冬季オリンピック競技役員としてお手伝い、昭和五十八年連盟理事長に就任して、「国民体育大会北海道大会」や「北海道スキー選手権大会」の開催誘致に加え、将来のオリンピック選手育成を目指す国際スキー連盟公認大会を開催するなど地元のみならず国内選手の育成強化と競技力向上に力を注いで参りました。

今回の受賞は私にとって、更に活力を与えてくれたものと思っております。これを契機になお一層精進して、スキーの楽しさ、素晴らしさを多くの皆様に知っていただくためにも何らかの役割に立ちたいと考えております。夕陽会の皆様のお励みとご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶と致します。

北海道スキー連盟功労者表彰

支えてくれた方々に感謝

函館市 畠 中 三喜夫 (昭和37年卒)

スキーとの出会いは、在学三年次に二七コでの集中講義を受けたときである。悪戦苦闘しながら大自然の中でスキーの楽しさを味わったのが始まりで、爾来その魅力にとり憑かれ気がついたら五十年、生活のサイクルにすっかり組み込まれ、これなしでの私は考えられなかった。

昭和三十九年に指導員資格をいただき、函館スキー連盟の一員として一般およびジュニアの指導育成にあたった。また同五十年に北海道スキー連盟技術員として四年、引き続き全日本スキー連盟技術員として計六期十二年間非力ながら指導者の技術向上や指導者養成の重責を負った。

函館スキー連盟関係では、教育部長、監事、副会長を歴任し現在に至っている。この度の北海道スキー連盟功労者として他に多くの適任者がおられる中でこの榮誉に浴したことを有難く喜ぶと同時に、これまで私を支えてくださった多くの先輩や仲間、職場の同僚、家族に対して心から感謝の意を表したい。

近年、スキー人口の減少が著しく、最盛期の三分の一といわれており、愛好者として心を痛めている一人である。この機を節目に及ばずながら、健康とモチベーションの続く限りこの道に携わっていききたいと考える此の頃である。



○ 文部科学大臣表彰教育者表彰

人との出会いを財産として

札幌市 高橋 裕
(昭和48年卒 北海道手稲養護学校長)

昨年十二月、文部科学省において、文部科学大臣表彰教育者表彰を受賞いたしました。

受賞に際しまして、橋田会長様はじめ夕陽会の会員皆様から心温まるお祝いの言葉をいただきました。ありがとうございます。

表彰式には、各都道府県からあわせて百五十名ほどが出席していました。私の受賞は、北海道の特別支援学校を代表してのものと考え、その思いを込めて、表彰に臨みました。

全国の表彰者を見ますと、特別支援学校の関係の方はあまり多くないように思



○ 北海道教育功績者表彰

オホーツクの地で

北見市 浪岡 康二
(昭和48年卒 北見市立中央小学校長)

この度、身に余る北海道教育功績者表彰という光栄に浴しました。北見市教育委員会、オホーツク教育局始め多くの先輩や仲間、とりわけ夕陽会や管内の多くの皆様の支えや後押しのお陰と感謝申し上げます。

授賞式は昨年十二月十五日、会場はライフオート札幌。一生に一度の晴れ舞台ということで妻の同席も許され、夫婦共々晴れがましい思いで式に参加させて貰いました。多くのご来賓、道教委の幹部の皆様、又当管内の森教育局長様も出席して頂く中、神谷教育委員長様より表

われ、私共特別支援教育関係者の受賞がこの教育への注目や理解につながれば幸いです。振り返ってみますと、離島の特殊学級の開設に始まり、附属養護学校での勤務、教育行政にかかわった時も、夕陽会の皆様から多くのご指導、ご支援をいただきました。このような人との出会いが、私の財産であり、私を成長させてくれた源であると思っています。

今、世の中は、生涯学習の時代です。この受賞を、私自身の次の学習へのエネルギーとして、また一歩を踏み出したいと思っています。

表彰状と記念品を授与され、感激の一言でしました。また授賞式前日には在札の指導主事会の皆様にお祝いの会を催して貰いました。橋田会長始め諸先輩もご出席下さり、「網走の地で三十八年よく頑張った」と心温まる励ましの言葉を頂き、本当に嬉しく思うとともに夕陽会の皆様のご配慮に改めて感謝を申し上げます。

退職後は、終の棲家を北見と定めました。今後も皆様のご厚情に応えるべく、地域や子供達の為に頑張りますのでご指導を宜しくお願い致します。



○ 北海道教育功績者表彰

同窓の支えと絆を強く感じて

江差町 山北 実
(昭和48年卒 江差町立江差小学校長)

この度、はからずも平成二十二年度北海道教育功績者表彰の栄に浴することになりました。浅学非才の私にとりましては、まさに身に余る光栄であり、大きな戸惑いを感じているところであります。

受賞に当たりまして、橋田会長様をはじめ、同窓の先輩、後輩の皆様から過分なるお祝いの言葉をいただき、改めて同窓の絆を強く感じたところであります。

これまで折々にご指導、ご支援をいただきました多くの皆様に心より感謝を申し上げます。とりわけ、夕陽会同窓の皆様若い頃より公私に渡ってご指導をいただきましたことに対しまして、重ね



○ 北海道教育功績者表彰

皆様の支えに感謝して

北斗市 能戸 誠一
(昭和48年卒 北斗市立上磯中学校長)

昨年十二月十五日、ホテルライフオート札幌で、和田基興渡島教育局長様はじめ、道教委や各教育関係機関を代表する方々のご臨席のもと、平成二十二年度北海道教育功績者表彰式が行われ、北海道教育委員会神谷奈保子教育委員長様より表彰状をいただきました。

また、表彰式前日には、橋田会長様はじめ在札夕陽指導主事会の皆様方からお祝いの言葉や心温まる祝賀の宴を開催して頂き、心からお礼申し上げます。このような賞は、お力添えをいただきました夕陽会の皆さんや多くの教育関係機関・地域の方々のご支援があつてのものであります。

て厚くお礼申し上げます。振り返れば、松山の地に生まれ、松山で始まった三十八年間の教職人生でしたが、折々に夕陽に支えられて参りました。初めて指導主事試験に臨んだ時も、不安に押しつぶされそうな心境でしたが、在札の諸先輩から懇切丁寧なご助言をいただき、ずいぶん心が軽くなったことを昨日のこのように思い出すことができます。

これからも、この受賞に恥じないよう精進して参りたいと思っております。夕陽会の皆様の益々のご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶といたします。

厳しさの中にも親切・丁寧な教師としてのいろはを教えていただきました。函館では、夕陽会の先輩・後輩、同僚から学級経営や生徒指導等について、徹しく鍛え育てていただきました。管理職として渡島では、地域に根ざした教育の大切さや教職員が一致結束した心の絆を深めることの大切さを教えていただきました。また、様々な場面で、先輩の皆さんの心あたたかい気持ちと夕陽会の伝統と素晴らしさに触れ、夕陽会の一員であることをうれしく思っています。

今後とも皆様のご厚情に応えるべく努めてまいりますので、さらなるご指導ご鞭撻をお願いいたします。夕陽会の皆様のますますのご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶といたします。本当にありがとうございます。



北海道教育功績者表彰
皆様にお力をいただいて

この度の受賞に際し、橋田会長はじめ多くの皆様からご厚情あふれるお祝いの言葉を賜り、心から御礼申し上げます。胆振管内豊浦町の、児童数七名という複々式の小学校でスタートした教職の道も、ゴール目前となりました。これまでの三十八年間を振り返ってみますと、その時々には指導・助言をしてくださった同窓の先輩の皆様が思い出されます。先輩のひとりで救われたり、決断できたりしたことが何度もありました。特筆できるような功績を残したわけではありませんが、胆振、渡島、釧路、後志の四管内で仕事をする事ができ、そ



夕陽記念館

函館市 藤川 隆
(昭和48年卒 函館市立八幡小学校長)
それぞれの地で同窓の皆様と知り合い、大きな力を与えていただきました。このことが、私にとりまして貴重な財産になっております。

また、本部幹事長を仰せつかり、会長でおられた安島先生や川島先生には、ご迷惑をおかけしながらも一緒に仕事をさせていただき、温かなご指導を賜ったことも、私の誇りとなっております。夕陽會に育てていただきましたこと、また、多くの同窓の皆様にお力添えを賜りましたことに、改めて感謝を申し上げます。今後は、一人でも多くの後輩の後押しができますよう努めてまいります。

会務報告



幹事長 土谷 敬
(昭和54年卒)

《一般会務》

12・5 札幌市支部と土谷幹事長、楢山副会長が総会、懇親会の札幌開催について打合せをする。(札幌)

20 10 本部会報202号を発行する。鷹澤副学長と橋田会長、土谷幹事長が懇談する。(函館)

2・7 北海道教育大学と5分校同窓会長が懇談する。(札幌) 北海道教育委員会高橋教育長と5分校同窓会長が懇談する。(札幌)

3・1 第2回本部役員会を開催する。(札幌) 本部会報203号を発行する。鷹澤副学長と橋田会長が懇談する。(函館)

14 10 大坂評議委員と橋田会長、奥崎副幹事長が懇談する。(函館) 函館校卒業式において平成22年度卒業生の新入会員の勧誘を行う。(函館)

17 函館校卒業式に橋田会長が出席する。(函館) 札幌支部例会に土谷幹事長、楢山副会長、懇親会・同期会・個展等

12・4 札幌支部例会に土谷幹事長、楢山副会長、懇親会・同期会・個展等

14 山副幹事長が出席する。(札幌) 道教育功績者表彰お祝いの会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。(札幌)

25 青森西北五支部総会が開催される。(五所川原)

1・5 特別支援学校支部総会に橋田会長が出席する。(札幌)

6 楽友会(音楽科同窓会)の懇親会が開催される。(函館)

16 能戸誠一校長道教育功績者表彰祝賀会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。(函館)

22 網走連合支部総会に橋田会長が出席する。(留辺蘂) 後志支部懇親会に土谷幹事長が出席する。(江差)

2・7 函館市支部顧問会議に橋田会長が出席する。(函館)

10 苫小牧支部懇親会に楢山副幹事長が出席する。(苫小牧)

11 日高支部総会、激励会に楢山副幹事長が出席する。(新ひだか町)

12 渡島支部支会長会議に橋田会長、土谷幹事長が出席する。(函館)

12 渡島支部勇退者激励感謝の会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。(函館)

18 函館市支部受章祝賀会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。(函館)

26 楢山支部総会・先輩を送る会に天野副会長が出席する。(江差) 岩手支部総会に繪面副会長が出席する。(盛岡)

26 岩手支部総会に繪面副会長が出席する。(盛岡)

社会に活躍する同窓

新課程を卒業して

函館市役所 直江 望
(平成22年卒)



私が大学を卒業してから一年が経ち、社会人二年目となりました。現在は函館市役所の福祉部に勤務しており、ケースワーカーとして生活保護世帯への支援を行っております。「新人」という言葉の陰で僅かながらに甘えて過ごした一年目も過ぎ去り、最近はやより一層気を引き締め、業務に取り組もうという固い意思と、大きな不安を抱いているところでありま

す。私は元々北海道旭川市出身であり、函館市へは大学進学とともに住み始めました。なぜ、北海道教育大学旭川校ではなく函館校への進学を選んだか。そこには「函館校での先生に学びたい」「函館校での講義を受けたい」といったような立派な向学心があったわけでもなく、ただ楽しそうだからという不誠実な理由でした。

私が大学に入学した平成十八年から函館校は「人間発達」「情報科学」「国際文化・協力」「地域創生」「環境科学」の五専攻からなる人間地域科学課程に再編された。新たな教養教育型大学へと変貌を遂げます。高校時代、卒業後の進路に悩んでいた私にとって、当時、函館校が推し進めていた「人間地域科学」という言葉は斬新かつ魅力的であり、進学を決意する大きな要因となりました。人間と地域を科学する課程、今考えても正直なところピンときません。ただ、人間科学と地域科学というどちらも比較的注目を浴びている学問を追求する大学であり、また極めて身近で、親近感の湧く分野であったことから、私はこの新たに生まれ変わった

た大学に「楽しみ」を抱いていました。大学入学後は実際に地域活動に参加してきた地域に触れていくといったフィールドワーク中心の講義が多かったように思います。地域を知るにはまず地域に入らなくては。そもそも、私たちは生活を営む上で常に何かしらの地域（地縁等）に少なからず所属しています。それにも関わらず、なぜまた外から地域に入る必要があるのかと最初は疑問を抱きました。しかしながら、実際に外から地域の内に入ってみると、いかに自分が地域から孤立した存在であるかを感じたのです。またそれと同時に、人と人との繋がりが地域を形作っていることを改めて実感し、その暖かい繋がりがこそがコミュニティを醸成していくものであると大学生活の中で考えさせられました。

社会人となり早一年、私は職場の内外問わず多くの夕陽会同窓の皆様と出会い、お話しする機会を頂いております。そしてその際、皆さんが決まって口にされるのが「同じ大学出身者として今後も共に支え合っていこう」という暖かいお言葉です。社会人一年目で右往左往していた私にとって、このお言葉は大変嬉しく、また幾度となく助けられたものでした。地域や職場は違えど、この「共に」という皆さんの思いこそが教育大函館校という大きなコミュニティの醸成に寄与するものではないかと私は考えます。最後に、今後は色々と思いますが、夕陽会の皆様にはご指導、ご鞭撻、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

かわいい子には旅を

株式会社日本旅行北海道函館支店 山崎 拓郎
(平成19年卒)



大学を卒業して早いもので、間もなく五年が過ぎようとしています。学生時代から好きだった旅行を仕事にしたいと考え現在の会社に入社しました。入社するまでは、いわゆるツアーコンダクターの仕事イメージしており、一年中国内・海外をあちこちを飛び回るものだと思っていました。現実は団体営業が主な仕事で企業様や学校様へ営業し、お客様を見つければ、添乗員として同行するため、セールスマンとしての仕事が大変な割合を占めます。経済状況やライフスタイルの変化により、旅行スタイルも団体旅行から個人旅行へと変化しており、添乗員同行の仕事自体が少なくなっております。そんな中で添乗員が同行し毎年実施される修学旅行はとて大きな勉強の機会です。現在の職場である函館支店は中学校・小学校の修学旅行お取り扱いが多く、学校のセールスを中心として、私自身数多くの諸先輩方にお世話になりながら、修学旅行のお取り扱いをさせていただいております。

巡ったり、アルバイトをしたりと本当に楽しく充実した時間を過ごしました。また、卒業論文で函館市湯の川温泉の歴史を調べた際にお世話になった旅館やホテル、地域の方々とは、現在の仕事をやるうえでもかけがえの無い出会いとなりました。もともと、引込み思案で人前に出るのが得意でなかった私が、今日までセールスマンとして、ツアーコンダクターとして何とかやっていけるのも、こうした経験があったからこそだと思います。

現在の仕事でも、修学旅行を通して子ども達と触れ合う機会があります。もちろん、学生時代のように一人一人としてくり向き合う時間はありませんが、修学旅行を通して成長する子ども達の姿を間近で見ているとこの仕事のやりがいを感じます。特に僕の好きな瞬間が、帰着式の子どもの真剣な表情です。出発式の時は明らかに違う修学旅行を通して一回りも、二回りも成長した子ども達の様子を見ていると、旅行の疲れも一気に吹き飛びます。「かわいい子には旅をさせろ」とは本当に良いことわざだと思います。親から離れ、知らない土地を五感を使って知ることのできる修学旅行の教育的な意義は本当に大きなものだと、実践の現場からつくづく実感します。旅行という形の無い商品を扱う難しさと面白さを胸にこれからも、子ども達が成長できる修学旅行を教育現場で活躍されている諸先輩方と共に創ってゆければと思います。皆様の良き旅行のパートナーとなれるようこれからも日々精進してゆきたいと思っております。



地域の金融機関人として

渡島信用金庫亀田支店 堀井 眞
(平成22年卒)

大学を出て早一年、私は二度の転動を経験し、今は渡島信用金庫亀田支店に身を置いていきます。私は入学当初から、教員ではなく民間企業への就職を望んでいました。「教育大学を出て教員になる」という当たり前の流れが、私にとってみれば少々窮屈なものであったのかもしれない。やはり「ちよつと変わったこと」をしてみたいという気持ちから、あえて民間の道を選んだのです。付け加えて言うならば、私は一種の変わり者なのだと思っております。

いざ就職活動してみると、思い通りにいかないことも多かったのですが、とても充実していたように思います。確かに内定もない状態でしたが、各会社の人事部の方などと直接会話を交わしたり、また、経営者との面接時では「自分を試したり」などと、学生時代では味わえなかった新しい刺激に出会うことが非常に多かったからです。その中で、私は人と接することが好きであることに気付かされ、「人と関わる仕事がしたい」と思うようになりまし。また、私が生まれ育った道南地区への愛着も再確認できました。

私は現在、渉外活動をしており、預金や融資の推進を行っています。そのため、一日のほとんどがお客様と接している時間になります。もちろん、お客様に信頼されるような接客術が必要になりますが、それ以前に商品知識がなければ提案する



原点回帰

函館市立深堀小学校 佐藤 正道
(平成14年卒)

平成十年四月。子どもたちに毎日楽しく学校に通ってほしい」

そんな願いをもち、故郷秋田を離れ、教育大学函館校に入学した。大学での四年間は、同じ夢をもつ仲間と貴重な時間を過ごすことができた。卒業後、秋田県で三年、胆振管内、石狩管内で四年半期限付き教諭として教壇に立った。

最初は、何が分からないのかも分からない状態だった。授業は、意味の分からない発問の連続で、混乱した。子どもの曇った顔を見るたびに、自分の力のなさを痛感した。

また、発言が曖昧で、子どもへの指示が通らないことがあった。うまくいかないことを大きな声でごまかし、子どもを委縮させる結果となった。

そんな私に、先輩の先生方はたくさんのことを教えてくれた。授業と一緒に考えてくれたり、私の気づかなかった子どもの変化を見抜き、的確なアドバイスをくれたりした。そのたびに私は反省し、先輩の先生方の良いところを真似しようと努めてきた。

平成二十二年四月。三十歳になった私は、なんとか採用試験に合格することができた。

「力量のない私が、このまま教職を続けられるのか」と不安になった。そんな時、赴任地が函館に決まった。

私は、原点に帰り、楽しい学校とは何かを考えた。

①子どもがいきいきと安心して過ごせる学校。
②教職員の和を大切にしたい協働意識をもった学校。

この二点に重点を置き、真摯に仕事に向き合おうと決めた。

もうすぐ、新しいスタートから一年が経とうとしている。私は、子どもたちにとつて分かりやすい授業ができるように、一層教材研究に取り組み、分からないことは、先輩の先生方に質問してきた。

運動会や学芸発表会では、一人一人の目標を共有し、クラスで一丸となつて取り組んだ。子どもたちが、いきいきと活動する姿を見て、改めて自分の仕事に対してのやりがいや素晴らしさに気付くことができた。

また、放課後は進んで先生方と会話をするようにしてきた。それぞれの教育観や子どもへの接し方など、雑談から学ぶことも多い。

今年度、ゆつくりではあるが、一歩前に進むことができた。一年であったと感じている。とはいえ、教員としては、まだまだ半人前である。

原点を見失うことなく、力量を高めていきたい。



こんな私ではありませんが、今後とも夕陽会の皆様にはお世話になるかと思ひます。その時はどうか、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひいたします。

ご冥福をお祈りいたします

萩原忠臣氏

名古屋市にご在住の昭和5年北海道函館師範学校第1部卒業の萩原忠臣氏が御逝去されました。
 萩原氏におかれましては、夕陽会90周年記念式典に遠方より御出席いただき、たいへんお元気な姿でいらっ
 しゃただけに、残念でなりません。
 これまで本会に多くのご支援を賜りましたことに、心から感謝し哀悼の意を表します。

平成二十二年度「研究助成報告

今年度の研究会・研修会等への助成実績がまとまりましたので、お知らせします。
 (研修部)

- 第六十回 全道造形教育研究大会 函館大会
- 「日高の会」研修会(渡島・日高プロジェクト研修会)
- 夕陽会空知支部「教育講演会」
- 渡島教育局研究指定 函館市教育委員 会研究モデル校 函館市立磨光小学校 公開研究会
- 平成二十二年 札幌支部 会員研修会
- 第二十回 北海道生活科・総合的な学習教育研究大会 函館大会
- 夕陽会 小樽支部 夏季研修会
- 第三十一回 北海道国際理解教育研究大会・函館大会
- 夕陽会渡島支部 第一回支部役員研修会
- 函館市国語教育研究会小・中合同夏季学習会
- 第六十五回 北海道国語教育研究大会 函館大会
- 平成二十二年 渡島教育局研究校 北斗市立上磯小学校 公開研究会
- 二〇一〇年 北海道教育大学函館学校教育学会 第十六回 年会
- 第五十二回 北海道音楽教育研究大会 函館大会
- 平成二十二年 北海道教育大学附属函館幼稚園教育研究大会
- 函館市小学校理科研究会研修会(平成二十三年 全道理科研究大会事前研修会)
- 新得小学校公開授業研究会
- 夕陽会小樽支部 冬季研修会
- 平成二十二年 夕陽会留萌支部 研修会
- 平成二十二年 夕陽会 岩手県支部 総会 花巻集会
- 夕陽会 特別支援学校支部 講演会

夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはweb委員会により、刷新されてから4年が経過しました。現在まで、約23,000人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページ の主な情報	会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み 会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過 母校90周年記念式典、支部・本部掲示板 本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報 渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」 母校の活躍、母校の今日、母校の歩み
--------------------	--

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/>

情宣部web委員会委員長 鳴海 裕 (昭和54年卒)

支部の歴史をふりかえって



会報の旅

函館市支部長 碓 幸信
(昭和49年卒 函館市立亀田小学校長)

夕陽會報百八十七号に、元函館市支部長の伊藤皓嗣氏が寄稿されている「支部の歴史をふりかえって」に目を通すと、大正七年三月の第一回卒業生六十八名が

集立つ場面から、詳細に記述されている。部分的に引用させていただくと、大正十二年に第一回卒業生安田吉助氏を初代支部長に選任し、支部会則を決め、正式に函館支部として発足した。

函館支部会々報は、創刊号は現存せず、第二号が、昭和六年七月二十二日に『函師同窓会 函館支部会々報』として発行されている。その後、昭和三十四年十二月十五日、『函館支部会報』復刊第一号が発刊された。

私は、函館市支部長の任を受け二年目を終えようとしている。今、机上には、函館市支部会報綴(永久保存というファイルが置かれている。支部長という役割の巡り合わせでファイルとの出会いがあった。結構分厚く、重みもある。その重みは重量だけではない。先輩諸氏の思いが詰められた、歴史ある会報の重みと解釈するのが自然である。

今回は、夕陽會報の紙面を借り、函館市支部の会報を振り返ってみたい。

第三号を見ると(昭和三十六年十二月)【婦人部の集い】という見出しが眼を捉えた。

文面を要約すると、

①例年出席の少ない女子会員のために支部の計らいで別の席を設けた。

②会場は、湯川の太陽館。折悪しくの天候にもかかわらず出席された方は五十余名を数えた。懐かしさに戸の開くたびに起こるかん声の盛り上がりで、凍てついたようだった部屋もほんのり和らいだ。

③支部長・幹事長等の出席のもと、今後の婦人部懇親会の持ち方について協議された。

その結果、

○婦人懇親会は、男子懇親会と別個にもつこと。

○支部組織の中に婦人部会というべきものを第五特別委員会として設ける。

○婦人部という正式な部会はなかったため、第五特別委員会の誕生は当夜の結実であった。

第五特別委員会誕生には、当時の支部長・幹事長等の皆様の心遣いを感じられた。そして、集った女子会員の和やかな雰囲気伝わってくる文面である。全文を掲載したいと思うほどの文章表現であり、歴史の重さを痛感した。

第十九号(昭和四十五年十二月)別に意識しているわけではないが、ま

たも婦人部の文字に眼がいった。
「婦人部講演と懇親の夕」
開 かる

そこに
は、会の
流れが書
かれてい
た。

懇親会
の様子を
思い浮か
べていた
だけでは
幸いであ
る。



【十月
二十九日、市民会館大会議室で、九十五名の方々にご出席いただき、終始なごやかに進められました。】という書き出しで始まっている。

講演、本部長や副支部長等、五名の方々の挨拶を挟みながら、次のようなプログラムで行われていた。

●フルート独奏(ピアノ伴奏)

・ 曲目 黒い瞳

●ソプラノ独唱(ピアノ伴奏)

・ 九十九里浜 初恋

●ピアノ独奏

・ 曲目 華麗なるポラツカ

●独唱

・ 曲目 ローレライ

●二部合唱(婦人部会全員)

・ 曲目 秋がゆくよ

●寮歌斉唱(参加者全員)

【婦人部に、「ご理解の深い、含蓄のあるスピーチ、心温まる音楽演奏と、祝婚披露宴にも似た上品な会でした。」と記されている。

また、「今回は、女子部が誕生したことを祝っての第一回の会合でした。」という一文もあるので、第五特別委員会から正式な女子部誕生まで十年近い年月が流れたことが想像できる。

プログラムの内容からしても、品位・品格のある懇親の場であり、熟読するにつけある種の感動を覚えた。

さて、ここ二年間の函館市支部は、『地域貢献』と『民間同窓生への組織拡大』の二つを大きな目標に活動してきた。

地域貢献の第一歩として、本年度、函館奉行所の開設にあたり、二台の椅子を寄贈することができた。その折、感謝状を授与され、夕陽記念館に置かせていただいている。今後も、何らかの活動を継続したいと考えている。組織拡大についても、本部・各支部との連携を深め、地道に努力する必要性を感じている。



今回、執筆依頼を受け、支部会報を紐解き、支部の歴史に多少なりとも触れる機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。